

社交不安障害に関わる要因の展望

—コストバイアスと安全確保行動に焦点をあてて—

○宇山 真依子・日下部 典子

(福山大学大学院人間科学研究科・福山大学人間文化学部心理学科)

目的

社交不安症／社交不安障害（社交恐怖）（Social Anxiety Disorder (Social Phobia)：以下 SAD）は、DSM-5 において、「他者によって注視されるかもしれない社交状況に関する著明または強烈的な恐怖または不安である」と定義されている（American Psychiatric Association, 2014）。

Clark & Wells (1995) のモデルでは、SAD の維持要因の一つとして、安全確保行動が重視されている。安全確保行動とは、恐怖場面内で生じる不安を軽減したり、破局的な結果をうまく避けたりする目的で患者が用いている行動である（Clark & Wells, 1995）。

また、コストバイアスも SAD の維持要因の一つである。コストバイアスとは、社会的状況の潜在的な脅威を過度に高く見積もる認知であり（城月他, 2010）、城月ら（2010）の先行研究では、コストバイアスの低減によって社会的状況における回避や不安などの症状が改善する可能性が示唆されている。

SAD の維持要因の一つとして、安全確保行動が重視されていることから（Clark & Wells, 1995）、安全確保行動への介入が SAD の軽減につながると考えられる。そのために、安全確保行動に対する、コストバイアスといった認知的な要因の影響を明らかにすることは重要であるといえる。

そこで本研究では、SAD に関わる要因としてコストバイアスと安全確保行動を取り上げ、SAD とコストバイアス、安全確保行動の関連を先行研究から概観することを目的とする。

方法

CiNii Articles で、「社交不安」「コストバイアス」「安全確保行動」をキーワードとして検索を行った。その結果、2021 年 11 月 9 日時点で「社交不安」では 676 件、「コストバイアス」では 10 件、「安全確保行動」では 50 件であった。そのうち「社交不安」と「コストバイアス」、「社交不安」と「安全確保行

動」の関連が検討されている研究を概観した。

結果

「社交不安」と「コストバイアス」に関する論文は 5 件あった。その中で城月・野村（2012）は、コストバイアスと、抑うつ症状に関連のある不合理な信念の双方が、SAD と関連する程度の違いについて検討した。その結果、不合理な信念の関与を受けず、コストバイアスが SAD に関与していることが示され、コストバイアスを低減させるアプローチが SAD 症状の改善に有効であると示唆された。また、城月（2014）は、社交不安におけるコストバイアスと不安のコントロール感について検討している。その結果、コストバイアスと不安のコントロール感の双方の変容が、SAD の改善を進めるうえで重要であると考えられた。

「社交不安」と「安全確保行動」に関する論文は 4 件あった。その中で荒井ら（2017）は、不安のコントロール感が SAD におよぼす影響に対する過活動、制限行動および身体症状を隠す行動の媒介効果について検討した。その結果、不安のコントロール感の低さから安全確保行動が生じ、SAD が維持されることが明らかとなり、不安のコントロール感と安全確保行動の双方が、SAD の軽減には重要であることが示された。

考察

先行研究では、「社交不安」と「コストバイアス」、「社交不安」と「安全確保行動」の関連が検討され、SAD の軽減、改善には、コストバイアスと安全確保行動が重要であると示されている。今後は、コストバイアスと安全確保行動の関連も検討していく必要がある。

引用文献

城月 健太郎・野村 忍 (2012). 社会不安に対するコストバイアスと不合理な信念の関連. 心身医学, 52 (3), 229-236.